

避難所開設、手順を確認

平成高 大地震想定、住民と訓練

横手市平鹿町の平成高校は5月27日、生徒や住民が参加する避難所開設・運営訓練を同校で行った。避難者名簿の作成やテント設営など災害時の対応手順を確認した。

大規模地震が発生し、付近住民が同校に避難してきたと

想定。全校生徒や住民、行政関係者ら約300人が参加した。役割分担して班ごとに活動し、施設管理班は仕切り用のテントを組み立て、食料物資班は支援物資の管理などを行つた。

住民と合同で訓練を行う



仕切り用のテントを設営する生徒

は昨年に続き2回目。市危機対策課の担当者は講評で「安否確認の方法や集合場所を話し合うなど、自分や家族を守る日頃の備えを忘れないでほしい」と呼びかけた。

未さん（3年）は「実際の災害時は十分な救護品がそろつてないことが多いので、タ

オルなど身近な品を使った手当ての仕方は勉強になった。いざという時に率先して行動できるようにしたい」と話した。
(佐藤悠大)

（佐藤悠大）